JMS NOTES

第59期 第2四半期
事業のご報告
2023年4月1日～2023年9月30日

(証券コード 7702)

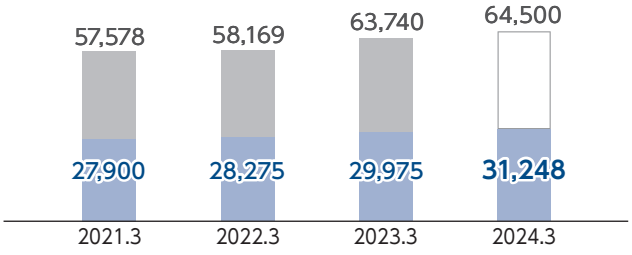
目次

01 連結財務ハイライト
02 JMS PREMIUM REPORT
【スペシャル対談】
2050年を見据えた「価値創造プロセス図」を策定
JMSのあるべき姿を実現するために
08 【特集】SDGs活動
09 トピックス
11 セグメント情報
12 システム別売上高
13 財務諸表
14 会社情報

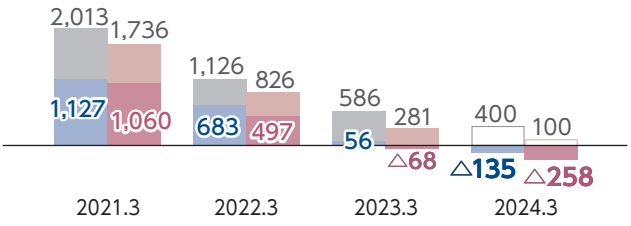
JMS
人と医療のあいだに…

連結財務ハイライト　第59期 第2四半期業績（累計）

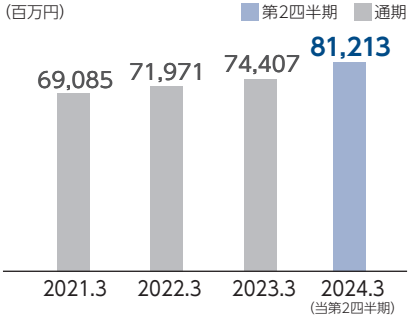
売上高　312億48百万円



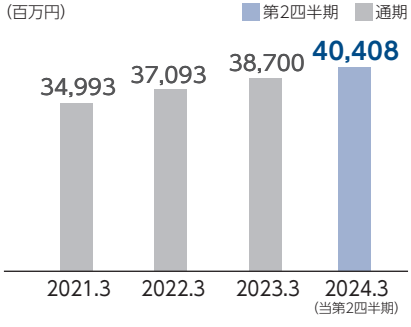
経常利益　△1億35百万円
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益　△2億58百万円



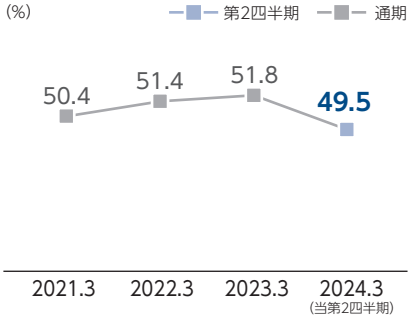
総資産　812億13百万円



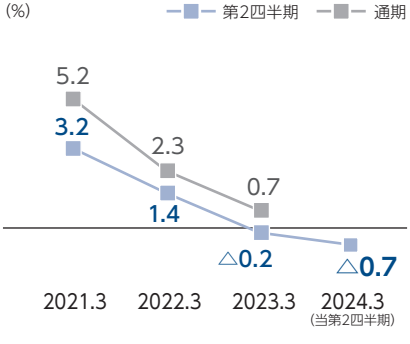
純資産　404億8百万円



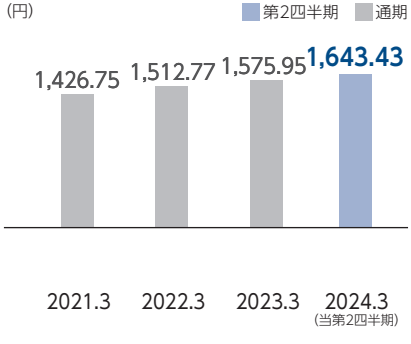
自己資本比率　49.5%



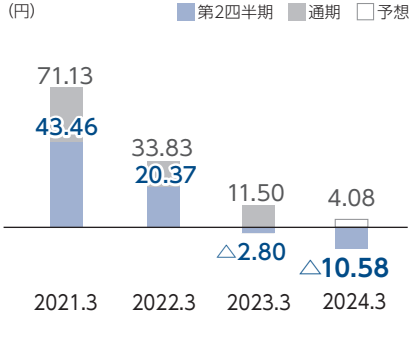
自己資本四半期（当期）純利益率（ROE）△0.7%



1株当たり純資産　1,643円43銭



1株当たり四半期（当期）純利益△10円58銭



スペシャル対談

2050年を見据えた「価値創造プロセス図」を策定

JMSのあるべき姿を実現するために

当社は2023年6月から新たな経営体制のもと、安定的かつ持続的な事業成長を目指してスタートを切りました。今回は、代表取締役社長の桂龍司と取締役副社長の粟根康浩が、2050年のJMS像を見据えた「価値創造プロセス図」を基に、経営の重要課題や、その礎となる経営資本、事業活動の在り方などについて意見を交わしました。

代表取締役社長
桂 龍司

取締役副社長
粟根 康浩

新経営体制がスタートして、およそ5カ月が経過しました。現在の気持ちをお聞かせください。

桂： 私は入社後、財務や経営企画など主に管理部門を経験してきました。2013年以降は取締役として、経営陣の一角を担ってきました。そして今は代表取締役社長として代表権を持つ立場。これまで以上に大きな重責を担うことになり、身の引き締まる思いです。

粟根： 私は長年にわたり営業部門を担当し、このたび取締役副社長に就任しました。改めて社内全体を広い視野で見渡すと、高い能力を持った貴重な人材が多数いることに気付きました。これまで社員一人ひとりが積み上げてきた経験や貴重なノウハウを集結させ、意識や行動のベクトルを合わせることで、当社はさらに大きく成長できると実感しています。

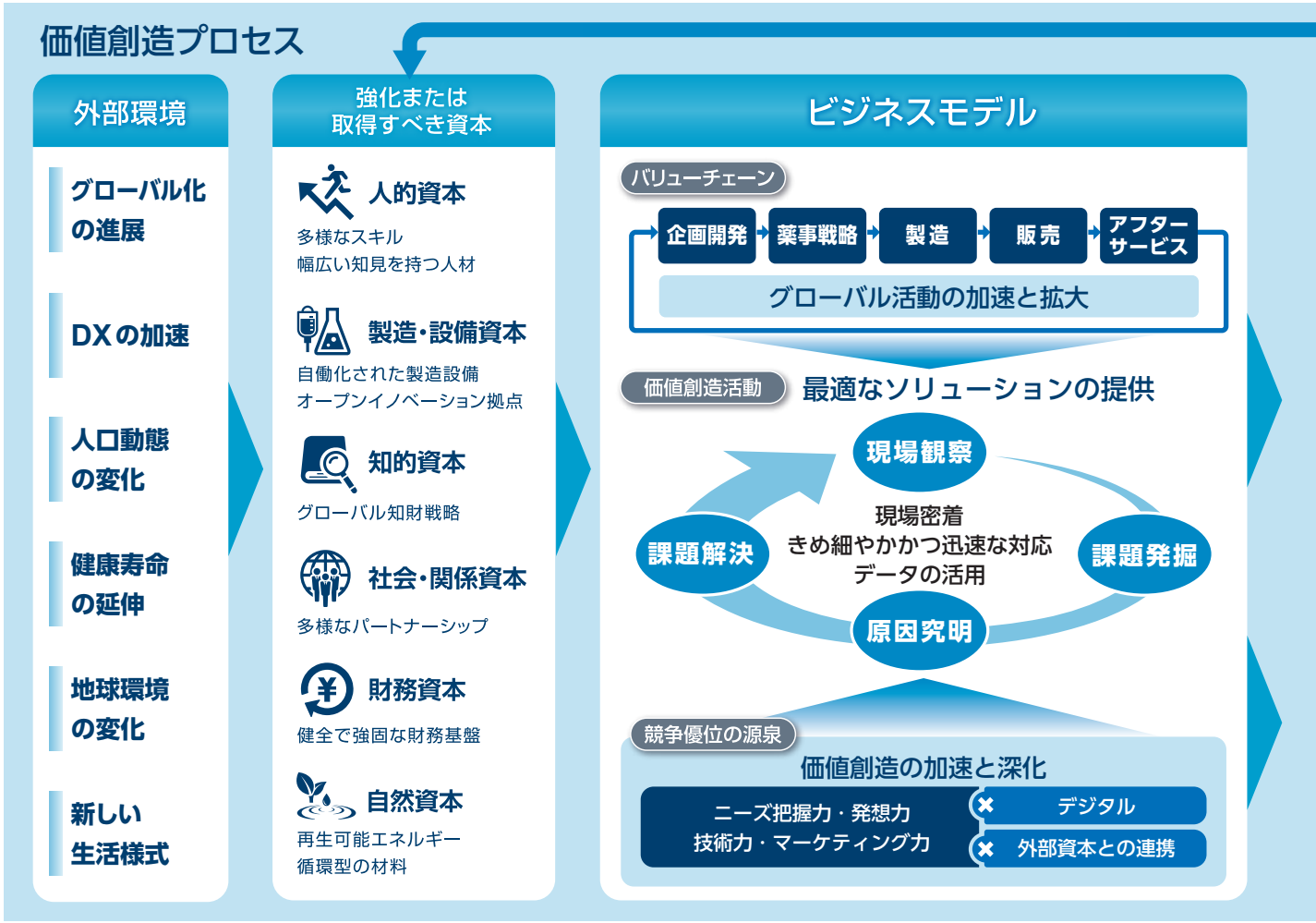
桂： 粟根副社長は営業部門の最前線に立ち、会社を引っ

張ってこられました。社外ネットワークも広く、新事業の創出でも非常に重要な役割を果たしていただいています。これからも、引き続きリーダーシップを発揮していただきたいと思っています。

粟根： アクセルとブレーキが正常に機能して初めて安全運転と考えると、私はアクセルの役割になると思っています。お互いの強みを生かし、足りないところを補い合っていきたいと思っています。

企業理念の実現に向けた「価値創造プロセス図」を策定されたと伺いました。その意義や目的について教えてください。

桂： 近年、企業には事業成長だけではなく、社会課題の解決や地球環境への貢献も求められるようになりました。当社も



ESG経営の推進による安定的かつ持続的な成長が重要と考え、2022年4月に若手社員による横断的組織「サステナビリティ準備委員会」を設置。将来視点を重視し、2050年に向けてステークホルダーに提供したい価値や必要となるビジネスモデル、資本など準備委員会によるたたき台のもと、経営陣を交えて協議を行い、価値創造プロセス図を策定しました。

粟根：価値創造のプロセスを可視化したなかで、私が注目しているのは、外部環境の変化です。

今、世の中ではパラダイムシフトが加速しています。例えば、JMSの創業当時（1965年頃）は交通戦争といわれ、交通事故で亡くなる方の数は1万7千人に迫る勢いでしたが、昨年は2,610人と過去最少を更新しております。

JMSは、外傷性ショックに対する輸液、輸血療法などのディスポーザブル製品や関連するME機器の開発を通し

企業理念	私たちは医療を必要とする人と支える人の架け橋となり 健康でより豊かな生活に貢献することですべての人々を笑顔にします
長期ビジョン	常に医療現場の課題解決を目指し、 製品・サービスを開発するソリューションカンパニー

マテリアリティテーマ

- 環境・社会課題解決に向けたインパクト創出
- 価値創造を支える多様な自立型人材
- 環境課題への貢献
- 健全なガバナンスの構築

アウトカム

患者（医療を必要とする人）

キュア（治療）からケア（総合的な健康管理）へ
QOLの向上、健康寿命の延伸

医療関係者（医療を支える人）

アンメットニーズの解決　安心・安全な医療の提供
医療効率化・負担軽減

株主・投資家 安定的な株主還元　**従業員** エンゲージメントの向上
取引先 安定的なビジネス機会提供　**地域社会** 地域発展への貢献
環境 省資源化 GHG 排出低減

アウトプット

事業展開における4つのKeywords

低侵襲　在宅医療　予防医療　予測医療

共通プラットフォームを通じたサービス提供

既存事業再編と戦略的提携を通じて未来医療に向けた新ポートフォリオ形成

代表取締役社長
桂 龍司

入社後、企画部門、財務部門および海外部門において豊富な業務経験を積む。2013年6月以降は取締役として当社の経営を担うとともに、経営企画部門を率いて企業価値向上に貢献。2023年6月、代表取締役社長に就任。

て、救命技術の進歩に大きく貢献しました。しかし、健康寿命の延伸に向けた取り組みが進められているなかで、価値提供の在り方が『量』から『質』へと、大きなパラダイムシフトが起こっていることを、まずは共感し、変化が激しい時代だからこそ考え方を変え、新しいイノベーションを生み出す仕組みづくりが必要となることを、社員の皆さんと共有したいと考えています。

事業活動に影響を及ぼす外部環境のうち、強く認識しているものは何ですか。

桂：「グローバル化の進展」です。近年、東南アジアをはじめとする新興国を中心に医療機器の需要が高まっています。これまで国内で培ってきた技術やノウハウを基に、JMSの存在をしっかりとアピールできる事業を展開していきます。

粟根：新興国での需要が拡大する一方で、マーケットの規模としては、アメリカやヨーロッパは魅力があります。「健康で長生きをしたい」というのは世界中のすべての人にとって共通の願いです。日本で作り出した価値を世界中に届けていきたいと考えています。

桂：「新しい生活様式」や「DXの加速」も注視しています。新型コロナウイルス感染症の影響で、人々の意識や行動に変化が生じました。それは、働き方改革にも大きな影響をもたらしているのではないでしょうか。2024年4月からは、医師の働き方改革が本格的にスタートします。医師が労働時間の上限を守りながら、従来以上に医療の質を確保していく必要があります。そのために、私たちがどのように貢献できるのか、しっかり考えていくべきです。

2050年に向けた長期ビジョンに「常に医療現場の課題解決を目指し、製品・サービスを開発するソリューションカンパニー」を掲げています。実現のためには、何が大切だとお考えですか。

桂：実現に向けて優先的に取り組むマテリアリティ（重要課題）のテーマとして「環境・社会課題解決に向けたインパクト創出」「価値創造を支える多様な自立型人材」「環境課題への貢献」「健全なガバナンスの構築」の4つを特定しました。また、それぞれのテーマに19個のマテリアリティを割り当てました。これらの課題に取り組むことで、経営戦略を加速させていきます。

具体的には、誰にどのような価値を提供していきたいですか。

桂：患者さんに対しては、キュア（治療）からケア（総合的な健康管理）へのシフトです。総合的な医療管理を行うための最適なソリューションを提供していくことで、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上や健康寿命の延伸を実現していきます。

粟根：これからの時代は、治療だけでなく、不安を取り除

き、安心感を生み出す、患者さん一人ひとりに寄り添った医療サービスの提供が求められます。そのためには、医療従事者の不満、不安、不足といった『不』の付くお困り事を解決するだけではなく、患者さんの潜在的なニーズにも応えていく必要があると考えています。

桂： アンメットニーズ(まだ満たされていないニーズ)ともいいますね。医療従事者に対しては、デジタルの力を駆使し、安心・安全な医療の提供、医療の効率化・負担軽減の実現を目指しています。近い将来の要望に応えていくことも重要ですし、未来の医療に対する提案にも取り組み、新たな価値を創出していきます。

企業の成長を加速させるために重要な分野や事業を教えてください。

桂： 今後の事業展開の方向として、「低侵襲」「在宅医療」「予防医療」「予測医療」の4つを掲げました。患者さんの負担を減らす低侵襲のニーズは、ますます高まっていくでしょう。また、予防医療や予測医療を用いて重症化を防ぐことも大切です。

粟根： まさにケアですね。重症化予防は医療費削減にもつながります。これからの注力分野の一つとして在宅医療を捉えています。自宅で安心して医療を受けられる環境を整えるために、使いやすいだけでなく、トータルでケアできる仕組みも必要です。また、遠隔通信機能などDXを活用した医療機器の開発を進めていかなければならないと考えます。

実現のためには、どのようなビジネスモデルで事業活動を推進させていきますか。

桂： 現場密着、きめ細やかで迅速な対応、データの活用という姿勢を保ちながら、「現場観察」「課題発掘」「原因究明」「課題解決」のサイクルを通じて、最適なソリューションを創出していきます。これは創業以来ずっと変わらないビジネスモデルです。

創業者で臨床医の土谷太郎が、医療機器のディスポーザブル化に取り組み、立ち上げた会社がJMSです。常に現場の課題解決を目指して製品を開発するという創業者の姿勢を継承し、これからも新たな価値を提供していく決意です。

粟根： 医療現場が抱える課題は、多岐にわたります。医師や看護師、臨床検査技師など、職種によっても異なります。日頃から営業や開発に携わる社員が医療機関を訪問してニーズを把握し、医療従事者や患者さんの目線で課題を解決していくのが、当社の強みです。また、高品質な製品を大量かつ安定的に供給できる体制も、競争優位の源泉としています。

取締役副社長
粟根 康浩

入社後、営業部門で実績を積み上げ、マーケティング分野においても深い見識を持つ。2011年6月以降は取締役として当社の経営を担う。2023年6月、取締役副社長に就任。

ビジネスモデルの基盤となる「強化または取得すべき資本」は何でしょうか。

桂： 「人的資本」は、これからも強化していきます。会社の財産は人です。今後の事業戦略を確実に実行するため、グローバル人材やデジタル人材の育成にもしっかり取り組んでいきます。

粟根：企業が継続的に成長していくには、多様なスキルを持った人材が必要です。女性活躍をはじめ、ダイバーシティ経営の推進が、会社全体のポテンシャルを引き上げていきます。働き方改革や人材育成、能力開発などによって、一人ひとりの労働生産性を向上させる取り組みをさらに深めたいと考えています。

桂：「社会・関係資本」も、これまで以上に肝要です。高度な技術や専門性が求められる今、自社でモノづくりを完結させる“自前主義”は限界に達しています。同業他社やパートナー企業などと連携することでオープンイノベーションを実践し、シナジー効果を生み出していかなくてはいけません。

多様なパートナーとの連携に向けては、渉外業務で豊富な経験を積んできた粟根副社長の手腕や高い推進力に期待しています。

粟根：ありがとうございます。社会・関係資本は、私も強く意識しています。例えば、他社の優れた素材を使い、生体適合性を備えた医療機器の開発など、さまざまな可能性が考えられますね。

今後、価値創造プロセス図をどのように社内に浸透させ、組織で機能させていきますか。

桂：価値創造プロセス図では、2050年という長期的な視点で未来を見据えています。一歩一歩前に進んでいくには、

今から私たちに何ができるのかを考えることが大切です。具体的には、3カ年の中期経営計画への組み込みや、業務の進捗を測定するKPI（重要業績評価指標）の設定が必要になると考えています。

粟根：まずは、社員一人ひとりがパラダイムシフトを認識することが必要です。そして、過去の成功体験にとらわれるのではなく、変化に対応した新しいイノベーションを創出していくことが求められるのではないでしょうか。

桂：そうですね。変化する外部環境に合わせて、自分たちも進化しなければ生き残れません。どのような姿を目指して進化するのか、方向性をしっかり見定めることも必要です。

価値創造プロセス図の策定がゴールではありません。これからが始まりです。医療機器の提供を通じて社会貢献を果たす会社であり続けるため、私たち経営陣と社員が一丸となって事業成長とESGを両輪で進めていきましょう。

当社グループは、これからも、人と医療をつなぐ架け橋として、それぞれの国や地域の医療現場における「価値」の創造と提供に取り組み、世界の医療と人々の生活の質の向上に貢献するとともに、健全な事業活動を通じて、企業価値を高めてまいります。

株主の皆様には、今後とも格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

循環型生産方式を構築 医療や社会に貢献

当社の千代田工場(広島県)では、地球環境に配慮した循環型生産方式の構築を目指したSDGs(持続可能な開発目標)活動を推進しています。中心メンバーの河内知香に、活動の視点や達成に向けた取り組みについて話を聞きました。

生産本部 千代田工場
品質管理課　河内 知香

環境に配慮した事業活動を

活動のきっかけは、千代田工場のスマート化に向けたDX(デジタルトランスフォーメーション)の勉強会です。学びを深めていくなかで、生産性向上や働き方改革がSDGsに含まれていることに気が付きました。工場長が旗振り役となり、従業員が主体的に取り組んでいこうと、有志6人によるプロジェクトチームを結成。省エネ、リサイクル、働き方改革の3つのジャンルに分けた取り組みを通じて、SDGsの達成に向けた活動の輪を広げています。

省エネ

室温の適正化と、その温度に適した服装で働く「クールビズ」を実施。夏場のユニフォームをブルゾンから半袖のポロシャツに変更しました。ポロシャツの素材は、廃プラスチックを再利用したリペレット材です。この取り組みによって、省エネはもちろん、循環型社会の実現にも貢献しているという意識が高まっています。

リサイクル

従業員の誰もができる活動の一つとして、リサイクルを前提としたゴミの分別を徹底しています。工場から出るゴミを、素材ごとに分類して廃棄。分別数は30を超えるため、品目や回収場所を示した「ゴミ&リサイクルマップ」を作成しました。知識向上と意識変革のため、工場内に掲示して周知を図っています。

廊下に掲示しているゴミ&リサイクルマップ

集まった廃棄物のうち、使えるものは有効活用しています。緩衝材や梱包紙などは、物品発送時の詰め物として再利用し、有償売却できる物はリサイクル業者へ。これらの地道な取り組みを通して、廃棄費用を半分以下に抑えることができました。

働き方改革

私が所属する品質管理課を対象に、「フリーアドレス」を導入しました。従業員の固定席をなくして、個人が自由に席を選んで仕事をするワークスタイルです。

台形型のデスクは、複数を組み合わせることでレイアウトが自由自在。変化に富んだ形を作ることができるため、「毎日配置が変わって、仕事のモチベーションが上がる」と好評です。また、「使用しているデスクは共有物」という認識が生まれることで整理整頓への意識が高まり、誰もが使いやすい空間になりました。

SDGs活動を通して目指しているのは、『地球環境に配慮した循環型生産方式を構築し、医療や社会に貢献できる企業であり続ける』こと。今後は、千代田工場の好事例を全社的に水平展開し、協力し合いながら活動の幅を広げていきたいと思っています。

台所でできるSDGs

家では、調理くずなどの生ゴミ(有機物)を分解・発酵させて堆肥化するコンポストを使っています。生ゴミからできる堆肥を使って野菜を育てる様子に、子どもたちは興味津々。私が使っているLFCコンポストはスタイリッシュなバッグ形で、ベランダでもキッチンでも使えます。

バッグ形のLFCコンポスト

大研医器と抗がん薬治療で業務提携
両社の技術を融合させた新システム開発へ

当社は5月19日、医療機器メーカーの大研医器株式会社と抗がん薬治療（化学療法）における業務提携契約を締結しました。当社の閉鎖式薬剤移注システム「ネオシールド」をはじめとするデバイスと、大研医器の超小型マイクロポンプを搭載した医薬品注入器「クーデックエイミー PCA」を組み合わせ、抗がん薬の曝露リスク低減を目的とした新たなシステムの開発を目指します。

開発したシステムによって、自宅など抗がん薬投与場所の選択肢を増やし、さらなる市場規模拡大を図ります。

※クーデック、エイミーは
大研医器株式会社の登録商標です。

大研医器の「クーデックエイミー PCA」

当社の閉鎖式薬剤移注システム「ネオシールド」

旭化成メディカル子会社の出資持分を取得
血液関連市場の事業収益拡大を目指す

当社の連結子会社であるジェイ・エム・エス・シンガポールPTE.LTD.は7月14日、旭化成メディカル株式会社から同社子会社の旭化成医療科技（張家港）有限公司（中国 江蘇省、以下AKTT社）の全出資持分の譲り受けを決定し、出資持分譲渡契約を締結しました。

AKTT社は、旭化成メディカルの白血球除去フィルター「Sepacell™」に係る技術、ノウハウを活用して、白血球除去フィルターを主に中国向けに製造販売しています。

当社はこれまで血液バッグに組み込む白血球除去フィルターを外部調達していましたが、この締結により、白血球除去フィルターを内製化し、血液バッグとの一体的な事業運営を通じてシナジーを創出するとともに、世界の血液関連市場における存在感を一層高め、事業収益の拡大を図っていきます。

※Sepacellは旭化成メディカル株式会社の登録商標であり、株式会社ジェイ・エム・エスは使用許諾を受けています。

当社のコア技術である閉鎖システムを活用
JAXAの細胞培養QCD製作を落札

宇宙航空研究開発機構(JAXA)の一般競争入札において、「定型化細胞培養装置クイックコネクトディスコネクト(以下細胞培養QCD)の制作」を落札しました。

細胞培養QCDは、国際宇宙ステーションを構成する「きぼう」日本実験棟での細胞生物学実験で使用される装置です。この製品仕様が、当社のコア技術である閉鎖システムを活用することで実現可能と判断。現在、閉鎖的・無菌的でありながら、簡単に着脱操作ができる閉鎖式薬剤移注システム「ネオシールド」の特長を活かした製品の製作を進めています。

今後も当社のコア技術である閉鎖システムの活用を通じて、医療および科学技術の発展に貢献してまいります。

患者さんと医療従事者の利便性を追求
自動腹膜灌流用装置「APD装置 PD-Relaxa」の販売開始

11月から自動腹膜灌流用装置「APD装置 PD-Relaxa」の販売を開始しました。

腎不全患者さんが在宅で行う腹膜透析療法を支援する「APD装置 PD-Relaxa」は、患者さんとその家族の生活に寄り添うことをコンセプトに開発。デザインや使いやすさの追求に加え、遠隔通信機能など在宅医療にDX(デジタルトランスフォーメーション)を取り入れることで、患者さんのQOL(クオリティ・オブ・ライフ)向上に大きく寄与します。

製品の特長

デザイン

日々の生活に溶け込む優しい雰囲気と清潔感のあるデザイン。

ユーザビリティ

透析液の設置位置を見直し、患者さんの負荷軽減と安全性を向上。

大型タッチパネル

業界最大の10.4型タッチパネル。治療状況の確認や操作が容易に。

通信機能

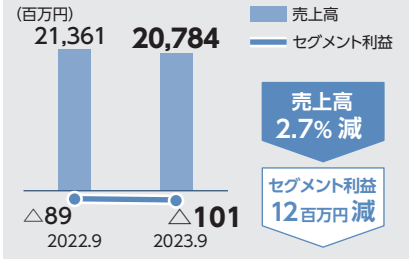
腹膜透析用治療計画プログラム「Relaxaリンク」を併用することで、医師との遠隔通信により、自宅から治療結果の送受信や治療条件の変更が可能。

セグメント情報 連結

■ 所在地別

(注) セグメント利益は、経常利益ベースの数値です。

日本



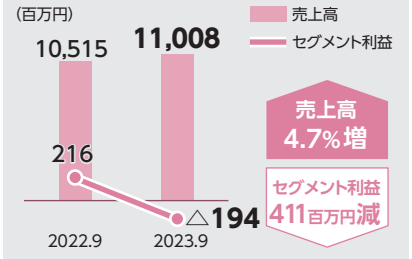
売上高 207億84百万円

薬剤調製・投与クローズドシステムが好調に推移したものの、栄養セットや医療用手袋のほか顧客の在庫調整により欧州向けAVF針が減少したことにより減少しました。

セグメント利益 △1億1百万円

減収影響に加え、研究開発費や販売活動費も増加したことにより減少しました。

シンガポール



売上高 110億8百万円

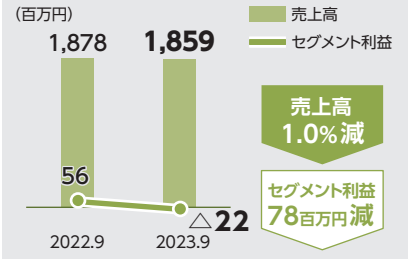
停滞していた海外需要が回復基調にあり、成分献血用回路やアジア及びアフリカ向けの血液バッグが増加したことに加え、円安による円貨換算額の増加も加わり、増加しました。

セグメント利益 △1億94百万円

増収効果はあるものの、原材料費や電力費等の高騰に加え、需要拡大に備えた労務費の増加もあり減少しました。

*シンガポールは、生産体制を相互に補完し一体とした事業活動を行うインドネシアの現地法人を含んでいます。

中国



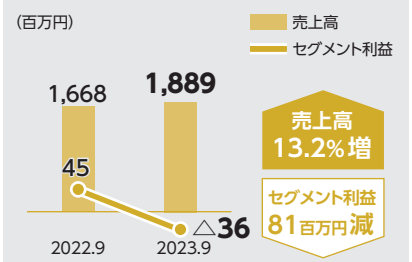
売上高 18億59百万円

市場成長による需要の拡大基調は変わりないものの、新型コロナウイルス感染拡大に伴う透析患者数の一時的減少等によりAVF針や人工腎臓用血液回路が減少しました。

セグメント利益 △22百万円

減収影響や労務費の増加に加え、販売活動費や一般管理費の増加もあり減少しました。

フィリピン



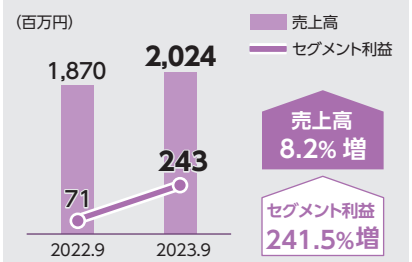
売上高 18億89百万円

アジア向け血液バッグや成分献血用回路が増加しました。

セグメント利益 △36百万円

増収効果はあるものの、原材料費や電力費の高騰に加え、血液バッグなど需要拡大に備えた労務費の増加もあり減少しました。

ドイツ



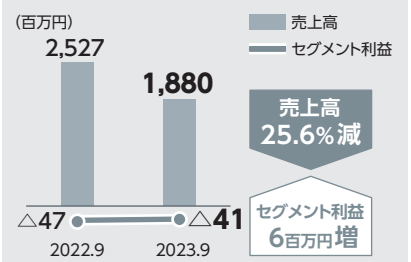
売上高 20億24百万円

欧州向け血液バッグの販売が好調に推移し増加しました。

セグメント利益 2億43百万円

増収効果により増加しました。

その他



売上高 18億80百万円

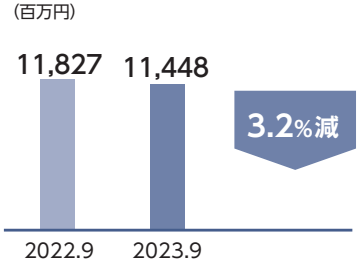
*その他は、国内子会社及びアメリカ、韓国、タイの現地法人の事業活動を含んでいます。

セグメント利益 △41百万円

■ システム別 売上高

輸液・栄養領域

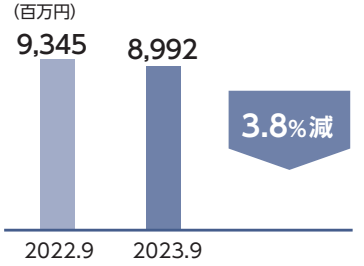
売上高 **114億48百万円**



薬剤調製・投与クローズドシステムやニードルレスアクセスポート付輸液セットが増加したものの、栄養セットや医療用手袋のほか、北米向け翼状針が減少しました。

透析領域

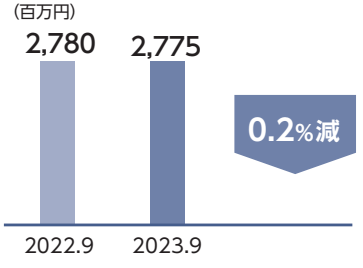
売上高 **89億92百万円**



血液透析装置は国内の減少を中国向けで補填し増加したものの、顧客の在庫調整により北米向けAVF針が減少しました。

外科治療領域

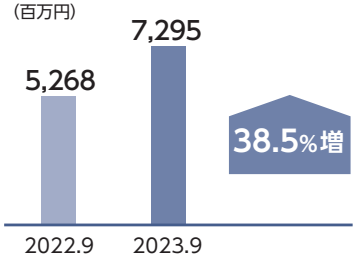
売上高 **27億75百万円**



人工心肺回路や血液濃縮器は堅調に推移したものの、人工心肺装置の減少により微減となりました。

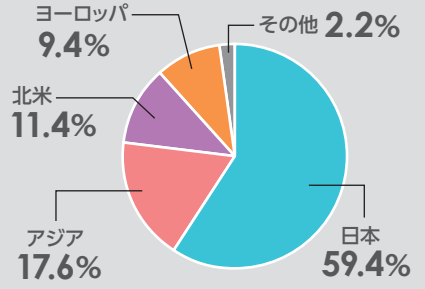
血液・細胞領域

売上高 **72億95百万円**

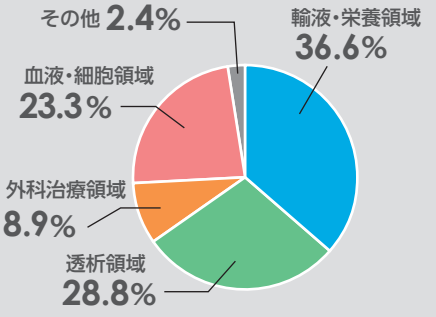


需要回復により成分献血用回路や血液バッグが増加、国内では白血球除去フィルター付血液バッグが増加しました。

■地域別売上高構成比



■システム別売上高構成比



輸液・栄養領域

輸液セット、注射針、シリンジ、薬剤調製・投与クローズドシステム、経腸栄養関連用品、摂食嚥下関連用品、輸液ポンプ、医療用手袋、不織布製品、他

透析領域

血液透析装置、ダイアライザ、人工腎臓用血液回路、AVF針、プレフィルドシリンジ製剤、腹膜透析液、他

外科治療領域

膜型人工肺、人工心肺装置、人工心肺用回路、中心循環系マイクロカテーテル、急性血液浄化関連用品、他

血液・細胞領域

血液バッグ、成分献血用回路、血液成分分離バッグ、再生医療関連製品、他

財務諸表《連結》

■ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科　目	前連結会計年度 2023年3月31日現在	当第2四半期 2023年9月30日現在
《資産の部》		
流動資産	42,263	**47,850**
現金及び預金	6,329	**9,878**
受取手形及び売掛金	17,197	**17,495**
棚卸資産	17,758	**19,749**
その他	977	**727**
固定資産	32,144	**33,362**
有形固定資産	26,008	**26,908**
無形固定資産	847	**774**
投資その他の資産	5,287	**5,679**
資産合計	74,407	❶ **81,213**
《負債の部》		
流動負債	22,437	**25,077**
固定負債	13,270	**15,727**
負債合計	35,707	**40,805**
《純資産の部》		
株主資本	35,057	**34,609**
その他の包括利益累計額	3,473	**5,625**
非支配株主持分	169	**172**
純資産合計	38,700	❷ **40,408**
負債純資産合計	74,407	**81,213**

❯❯❯ POINT 解説

❶ **資　産　合　計**〔前連結会計年度末に比べ68億5百万円増加〕
・現金及び預金や有形固定資産が増加しました。

❷ **純　　資　　産**〔前連結会計年度末に比べ17億7百万円増加〕
・為替換算調整勘定の変動により増加しました。

❸ **売　　上　　高**〔前年同四半期に比べ12億72百万円増加〕
・国内は、薬剤調製・投与クローズドシステムが好調に推移するも、血液透析装置の需要減退もあり微減となりました。海外は需要回復により血液・細胞領域が継続伸長し、円安による円貨換算額の増加も加わり増収となりました。

❹ **営　業　利　益**〔前年同四半期に比べ2億75百万円減少〕
・原材料費や電力費の高騰に伴い国内消耗品を中心に一部価格転嫁を進めるものの、需要拡大に備えた海外拠点の労務費や、研究開発費の増加もあり減益となりました。

❺ **経　常　利　益**〔前年同四半期に比べ1億91百万円減少〕
・持分法による投資利益や為替差益の計上があるものの、営業利益の減少により減益となりました。

■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科　目	前第2四半期 (2022年4月1日～2022年9月30日)	当第2四半期 (2023年4月1日～2023年9月30日)
売上高	29,975	❸ **31,248**
売上原価	23,132	**24,466**
売上総利益	6,842	**6,781**
販売費及び一般管理費	6,887	**7,102**
営業損失(△)	△44	❹ **△320**
営業外収益	231	**302**
営業外費用	130	**117**
経常利益(△は損失)	56	❺ **△135**
特別利益	63	**1**
特別損失	15	**7**
税金等調整前四半期純利益(△は損失)	104	**△140**
法人税等	193	**126**
四半期純損失(△)	△88	**△267**
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△20	**△8**
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△68	**△258**

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科　目	前第2四半期 (2022年4月1日～2022年9月30日)	当第2四半期 (2023年4月1日～2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	233	❻ **407**
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,095	❼ **△1,456**
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,016	❽ **4,377**
現金及び現金同等物に係る換算差額	304	**220**
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△540	**3,548**
現金及び現金同等物の期首残高	6,810	**6,325**
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,270	**9,874**

❯❯❯ POINT 解説

❻ **営業活動によるキャッシュ・フロー**
〔前年同四半期に比べ1億73百万円の収入増加〕
・その他流動負債の増加によるものです。

❼ **投資活動によるキャッシュ・フロー**
〔前年同四半期に比べ6億39百万円の支出減少〕
・有形固定資産の取得にかかる支出の減少によるものです。

❽ **財務活動によるキャッシュ・フロー**
〔前年同四半期に比べ33億60百万円の収入増加〕
・借入金の収支差額によるものです。

(注)金額につきましては、百万円未満を切り捨てて記載しております。

◉コーポレートデータ

(2023年9月30日現在)

設立	1965年(昭和40年)6月12日
資本金	7,411,014,445円
上場金融商品取引所	東京証券取引所スタンダード市場 (証券コード:7702)

※10月20日より東京証券取引所プライム市場から移行しました。

主要な事業内容	医療機器、医薬品の製造・販売 及び輸出並びに輸入
従業員数	1,612人(グループ総数 5,442人)

◉役員

(2023年9月30日現在)

取締役	代表取締役会長	奥窪 宏章
	代表取締役社長	桂 龍司
	取締役副社長	粟根 康浩
	取締役	柳田 正吾
	取締役	迫田 亨
	取締役	植松 雷太
	社外取締役	池村 和朗
	社外取締役	石坂 昌三
	取締役 監査等委員(常勤)	近藤 良夫
	社外取締役 監査等委員	水戸 晃
	社外取締役 監査等委員	佐上 芳春

国内ネットワーク

株式会社ジェイ・エム・エス

【本社】広島本社／東京本社
【支社・営業所】東日本支社／中日本支社／西日本支社、営業所25ヵ所
【工場】三次工場／出雲工場／千代田工場
【子会社】ジェイ・エム・エス・サービス株式会社《医療機器の修理等》
【関連会社】株式会社ジェイ・オー・ファーマ《医薬品の製造・販売》

海外ネットワーク

【子会社】株式会社 韓国メディカル・サプライ《製造・販売》
ジェイ・エム・エス・シンガポールPTE.LTD.《製造・販売》
大連ジェイ・エム・エス医療器具有限公司《製造・販売》
ジェイ・エム・エス・ノース・アメリカ・コーポレーション《販売》
バイオニック・メディツィンテクニックGmbH《販売》
PT. ジェイ・エム・エス・バタム《製造・販売》
ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・フィリピン, INC.《製造・販売》
ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・タイランド CO.,LTD.《販売》

◉株式等の状況

(2023年9月30日現在)

◇発行可能株式総数 …… 65,000,000株

◇発行済株式総数 …… 24,733,466株
(自己株式251,046株を含む)

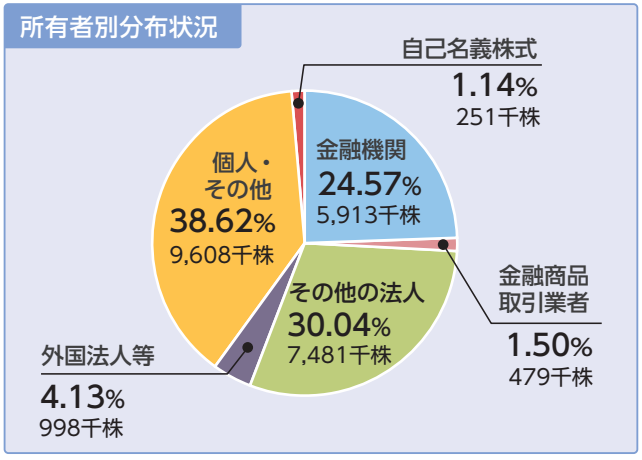
◇株主数 …… 9,180名

◇大株主の状況(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社カネカ	2,539	10.37
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,233	9.12
一般財団法人土谷記念医学振興基金	1,900	7.76
土谷 佐枝子	1,008	4.11
社会福祉法人千寿会	1,000	4.08
株式会社広島銀行	895	3.65
第一生命保険株式会社	645	2.63
JMS共栄会	623	2.54
大下産業株式会社	571	2.33
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	469	1.91

(注)持株比率は、自己株式(251,046株)を控除して計算しております。

所有者別分布状況



株主メモ 証券コード：7702

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
基準日	定時株主総会　3月31日 期末配当　3月31日 中間配当　9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 Tel.0120-094-777（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所スタンダード市場
公告の方法	電子公告とする。 （https://www.jms.cc/ir/denshi.html） ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

ご注意

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

JMS WEBサイトのご案内

当社の経営方針から主な製品、研究開発、IR、腹膜透析等の医療情報まで、多彩な情報を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

▶▶▶https://www.jms.cc　JMS　検索

株式会社 ジェイ·エム·エス

広島本社　〒730-8652　広島市中区加古町12番17号
TEL 082-243-5844　FAX 082-243-5997

東京本社　〒105-0023　東京都港区芝浦一丁目2番1号 シーバンスN館11F
TEL 03-6372-9120　FAX 03-6372-9121

【表紙デザイン】

テーマ「成長し続ける」

大きな二葉を囲み、未来を語る二人をモチーフに、そこから広がる鳥、植物、太陽などには希望や成長のメッセージを込めています。
新たな経営体制により、高まる期待感と、これからも成長し続けるJMSを表現しました。

UD FONT
見やすいユニバーサルフォントを採用しています。